

令和5年度 第7回 政策決定会議 会議録②

-
- ◆開催日時：令和5年11月29日（水） 13：14～13：30
 - ◆開催場所：市長公室
 - ◆出席委員：永野市長、堤副市長、波積副市長、大下教育長
 - ◆説明者：大西子ども家庭応援部長、山田こども園推進課長、拝崎こども園推進担当主幹
-

◆審議事項

市立認定こども園の教育・保育内容等について・・・子ども家庭応援部こども園推進課⇒承認

◆審議概要

◎説明者から、案件及び政策調整会議における議論の内容を説明し、政策調整会議にて、本件原案のとおり承認された旨、報告。

◎報告後、質疑応答

〈堤副市長〉こども園の形がようやく具体的に見えてきた。ハード面では、先日現地を見たが、場所的に導線も厳しい中、土地をうまく使いこまで来られて良かった。ソフト面では、「デイリープログラム」が保育園側へ幼稚園側を寄せていくようになっている。勤務条件の面で職員が不安に苛まれていると思うので、給与面や待遇面など全てにおいて良くなることを明言して、こども園に勤めて良かったという見本になるよう、ぜひとも人事課と調整、連携、相談しながら進めてもらいたい。先行他市の担当者からも苦勞を聞いているが、頑張っけて取り組んでほしい。

〈波積副市長〉岸和田で第1号の認定こども園ができることは感慨深く感じており、素晴らしいことだと思っている。建物ももちろんだが、プログラムにおいては保育園に寄せながらも、小学校に繋げる機関として教育もしっかり行うとのことなので、モデルとなって良かったと言われる施設になるようにされたい。

〈教育長〉令和2年に岸和田市に着任した際、まずこの問題に直面した。公立園のあり方をめぐり非常に大きな議論が巻き起こった中、公立園としての役割をしっかりと果たす意味で、各圏域原則1園が必要であると位置づけた経過があることを忘れてはいけないと思う。今回初めて市立の認定こども園が旭・太田にできるが、これまでの経緯に鑑みたとき、「幼保連携型認定こども園」としての役割を果たすことは当たり前で、むしろ「“市立”幼保連携型認定こども園」としての役割を果たすことをしっかりと位置付けなければいけない。例えば、評価が定まらないがこどもに有用だと思われるパイロット事業の実施や障がい児の受入れ、それらを民間園に広げていくことを、教育委員会と子ども家庭応援部と一緒に努めていきたい。

〈市長〉こども園は、岸和田市では民間での取組の方が進んでいる。現在民間こども園は何園あったか。

〈こども園推進担当主幹〉分園を含め、23の民間こども園がある。

〈市長〉こども園としては、公立は民間に学ばなければいけない。重度の障がいを持ったこ

もは公立園で見てきた経緯があり、引き続き公立園で見ていく姿勢も大事だが、現在は民間園での受け入れも進んでいる。民間園の中には障がいのある子もない子に交じってうまく生活しているところもある。今後は障がいの有無に関わらず、同じクラスで活動するという取組が大事。また、帰宅時間など多様な子ども達の事情や暮らしが展開されていくのがこども園だと思うので、職員は、子ども達の多様な暮らしや生活を支えることが大事。幼稚園機能・保育園機能を分けていたこれまでと違い、両方の機能を担うにあたり、特に保育園機能は多様なので、職員がついていけるようにすること。多様な家族の在り方や人々の多様な暮らしの中で、多様な能力を育めるような園にしてほしい。第1号なので、後に繋がる良い園を作ってもらいたい。

〈総合政策部長〉本案件について、原案のとおり承認してよろしいか。

【異議なし】

⇒本件を原案のとおり承認する。

令和5年 11 月 13 日

政策調整会議付議依頼書

依頼者名 子ども家庭応援部長

下記事項について、効果的かつ効率的な市政運営実施のための会議の設置に関する規程第 14 条の規定に基づき、下記のとおり付議を依頼します。

記

付議事項名	市立認定こども園の教育・保育内容等について
付議の目的 (ポイントを絞り込んで、簡潔に記載すること。)	市立認定こども園設置検討委員会において、市立認定こども園の教育・保育カリキュラム及びスケジュール、(仮称)旭・太田認定こども園の園舎及び設備等の案を作成しましたので、市立認定こども園の運営実施等にあたり、付議を依頼するものです。
説明者	子ども家庭応援部こども園推進課:山田、拝崎
付議事項の概要	様式別紙に記載

別紙

付議会議	令和5年度 第7回会議
付議事項	市立認定こども園の教育・保育内容等について

★取組の目的

対象	就学前児童
どのような状態を目指す	就学前児童・保護者にとって良好な幼児教育・保育環境を実現するため、市立幼稚園及び市立保育所の再編を実施する。

★総合計画上の位置付け

1020101	基本目標	岸和田の次世代を育むまち
↑ここにコードを入力 (コードは「将来ビジョン・岸和田(体系)」シートを参照)	個別目標	働きながら子育てができていく
	個別目標の方向性	① 保育を必要とする人が、安心して子どもを預けられる環境づくりを進める
	行政の役割	ニーズに応じた保育や学童保育の量の確保を行う

★現状と課題

市立認定こども園設置検討委員会において、市立認定こども園の教育・保育カリキュラム及びスケジュール、(仮称)旭・太田認定こども園の園舎及び設備等の案を作成したため、市立認定こども園の運営実施等にあたり、付議するものである。

(単位:千円)

実施中の取組及び予定する事項	決算(見込額)		予算額	見込額					
	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	
①市立幼稚園及び保育所再編事業	3,985	2,857	365	561	135	0	405	0	
②市立認定こども園整備事業	0	7,624	339,098	960,772	434,640	422,632	86,000	636,558	
③民間認定こども園施設整備事業(民生費)	91,582	782,262	586,551	586,145	0	75,941	303,764	278,438	
④民間認定こども園施設整備事業(教育費)	25,229	169,773	0	0	0	0	0	0	
⑤民間保育所施設整備支援事業	0	15,675	0	33,481	0	0	0	0	
⑥公共公益施設整備基金積立事業	145,910	0	100,052	0	0	166,733	0	0	
財源内訳	国費	81,407	685,913	507,930	74,005	20,765	62,880	251,553	306,418
	府費	16,923	113,262						
	起債								
	一般財源	168,376	179,016	518,136	1,506,954	414,010	602,426	138,616	608,578
	その他								
事業費			計	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	
			3,986,205	1,580,959	434,775	665,306	390,169	914,996	

★当該事項に関連する人員増の必要性*

人員増の必要性	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度
有					
無					

★取組の効果を表す指標

指標名	単位	R3年度	R4年度	R5年度	目標値				
					R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度
① 本計画(案)により設置される 幼保連携型認定こども園数 ※市立施設3園・民間施設4園	園			1	2	1	1	1	1
② 本計画(案)により閉園される 幼稚園・保育所数 ※市立施設8園	園			1	1	2	3	1	2

※事業費及び人員を確約するものではない。